

第27週の発生動向(2006/7/3~2006/7/9)

1. 水痘については、むつ保健所管内(第25週から)において、**警報**が継続しています。
2. 伝染性紅斑については、五所川原保健所管内(第19週から)において**警報**が継続しています。
3. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内(第26週から)において、**警報**が出されています。
4. 流行性耳下腺炎については、上十三保健所管内(第24週から)において**警報**が継続しています。
5. インフルエンザについては、県全体では減少傾向にありますが、八戸、上十三およびむつ保健所管内において、患者報告数が多い状態が続いており、引き続き注意が必要です。迅速診断キットにより、弘前保健所管内で、B型:2件、むつ保健所管内ではB型:35件が報告されています。

第27週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
(72) インフルエンザ	2	0.14	2	0.13	45	3.21			64	7.11	35	5.83	148	2.28	-18					
(60) 咽頭結膜熱	3	0.33	1	0.11	2	0.22			2	0.33	5	1.25	13	0.31	-9					
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.78	15	1.67	7	0.78			6	1.00	7	1.75	42	1.00	4					
(62) 感染性胃腸炎	16	1.78	10	1.11	4	0.44	5	1.00	9	1.50	41	10.25	85	2.02	18					
(63) 水痘	10	1.11	8	0.89	20	2.22	3	0.60	6	1.00	19	4.75	66	1.57	-41					
(64) 手足口病															-6					
(65) 伝染性紅斑	12	1.33			6	0.67	5	1.00	3	0.50	2	0.50	28	0.67	-9					
(66) 突発性発しん	1	0.11	5	0.56	3	0.33			9	1.50	5	1.25	23	0.55	8					
(67) 百日咳															0					
(68) 風しん															0					
(69) ヘルパンギーナ	34	3.78	68	7.56	3	0.33	5	1.00	8	1.33	5	1.25	123	2.93	13					
(70) 麻しん(成人を除く)													2	0.05	2					
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.67	21	2.33	10	1.11	5	1.00	47	7.83	9	2.25	98	2.33	22					
(73) 急性出血性結膜炎															0					
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00	1	0.33	5	2.50	2	2.00	2	1.00			12	1.09	1					
(59) RSウイルス感染症															0					
(82) マイコプラズマ肺炎					6	6.00					5	5.00	11	1.83	-5					
合計																65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)

各届出保健所:弘前:1人,八戸:1人,上十三:1人,むつ:2人

(18年計 7人)

(29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 青森保健所管内:1人,八戸保健所管内:1人

(18年計 15人)

感染症の窓

腸管出血性大腸菌感染症

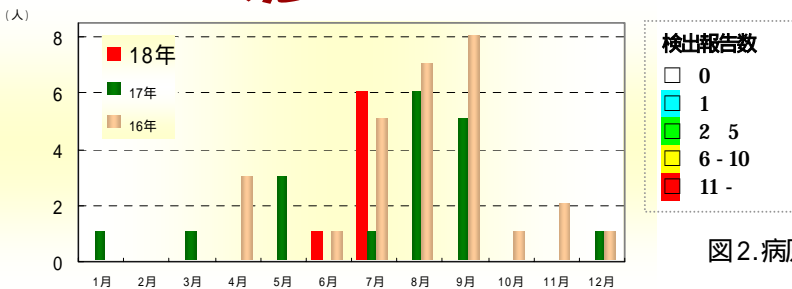


図1.過去3年間の月別報告数(青森県) 18年は第27週(~7/9)まで

本県では6月29日から7月9日までに7名(O157:5名, O26:2名)の報告となっています(図1)。7月10日のIASRによる全国の分離/検出状況では、O157が126例(68%)、O26が38例(20%)と関東以南に多く報告されています(図2)。本県過去3年間の型別集計では、O157が32例(61%)、次いでO26が14例(26%)という割合になっています(図3)。患者の症状の多くは腹痛、水様性下痢、発熱等であり、腎不全を伴う重症例もあります。予防
本疾患の原因菌は、ウシや羊などの大腸に生息しており、少量の菌量でも発症することから、肉や野菜を食べるときには十分な加熱や洗浄をすることが重要です。また、二次感染の予防としては、排便後の手洗いを石鹸、流水等で十分に行うことが大切です。



図2.病原微生物検出情報 各地方衛生研究所からの分離検出/報告 :2006/7/10報告より(IASR:国立感染症研究所)

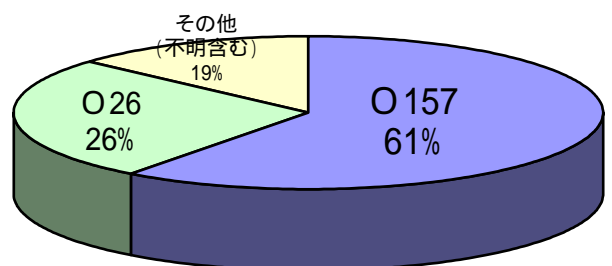


図3.過去3年間の血清型別割合(青森県)